

前文部科学副大臣 塩谷立氏 が五色百人一首を応援！！

「大いに普及を図ってほしい。こうした工夫ある取り組みは

(国としても)

応援したい。」

【大会冊子のメッセージ】

日本を代表する古典文化の
粹ともいわれる百人一首を、

より多くの遊びの中で百人一首を身につけることが
できることは驚きの一語につきます。

県内においても五色百人一首の講座を開いて普及に
あたっている活動に改めて敬意を表します。

この大会を通してより多くの人に五色百人一首の
面白さや楽しさをPRし、情操陶冶に大きな役割を
果たしてくれることを念じ、お祝いのメッセージと
いたします。

【大会当日の開会式での挨拶】

大変すばらしいこの百人一首のやり方。

私は感激しました。向山先生という小学校の先生が、
もう20年前ぐらいに考案したと言うことでございまして、
こういったことはですね、これからもっともっと教育の場で、
あるいは家庭で、できるだけ難しいものを難しくではなくて、
もっと親しみやすくそういった形で、この子どもさんが、
小学生の皆さんが覚えていただくことが一番大事だと思っ
ておりますので、私も今、文部科学副大臣ということで、
大変勉強をさせていただきました。



20枚の札を挟んで熱戦を展開する小学生ら
＝掛川城御殿

色
首
一
百
人
五

札20枚挟み争奪戦

県内児童
130人参加

掛川で初の県大会

百枚の札を五色に色分けし、二十枚で対戦するよう考案された「五色百

人一首」の初の県大会がこのほど、掛川市の掛川城御殿で開かれた。県内各地の小学生約百三十人が参加。国の重要文化財である御殿の広間を舞台に、熱のこもった試合を繰り広げた。

五色百人一首を考案した向山洋一氏が代表を務める教員の実践研究組織「T.O.S.S.」の五色百人一首協会県支部（代表・堀場弘喜掛川市立大淵小教諭）が主催した。子どもたちは二十枚の

札を挟んでそれぞれ一対一で向かい合い、上の句、下の句が読み上げられるたびに、先を争って「ハイ」と手を伸ばした。会場には大会名誉会長を務める塩谷立衆院議員（静岡8区）も足を運び「大いに普及を図ってほしい。こうした工夫ある取り組みは(国としても)応援したい」と期待を寄せた。

結果は次の通り。

青色の部 ①関谷真琴（浜松市立郡田小4）②杉山知加（富士市立須津小6）
▽赤色の部 ①大木彩実（浜松市立南小4）②小安未来（掛川市立西山小5）
▽黄色の部 ①宇佐美花穂（富士市立須津小6）②青野真美（浜松市立可美小4）
▽緑色の部 ①鈴木久貴（富士市立須津小6）②高羽那花（浜松市立三方原小4）
▽橙色の部 ①大石若菜（常葉大付属橋小6）②黒田里佳（掛川市立西山小6）